



EMORY

ROLLINS  
SCHOOL OF  
PUBLIC  
HEALTH

公益財団法人  
船井情報科学振興財団御中

2021年6月18日  
エモリー大学 公衆衛生大学院 ポスドク1年目  
塩田 佳代子

---

## 2016年度派遣奨学生 第12回 留学報告書

---

### 研究報告（2021年3月～6月）

---

#### Lopman Lab における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の研究

[Lopman Lab](#) では、教授の [Benjamin A Lopman](#) のもと、新型コロナウイルスの感染症疫学研究をしています。テーマは「これまでアメリカで新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）に何人感染したのかを正確に推定する」ことです。これは集団免疫（herd immunity）に達したかを判断するためや、ワクチンの効果を評価するために重要な指標になります。前回の報告書（第11回 2021年2月）で、抗体の有無のデータをもとにより正確に累計感染者数を推定できるモデルを開発したと書きましたが、論文が査読付きジャーナルに掲載されました（[Shioda, et al.](#)）。2021年5月には [2021 MIDAS Network Annual Meeting](#) で、6月には [2021 EEID 学会](#) にてこの研究の発表しました。こちらの研究は、co-PIとして Emory 大学から\$50,000の seed grant を獲得することができ、現在 CDC と協力して全州での累計感染者数推定を行っています。

また、前回報告した [COVIDu](#)（全50州での抗体調査）は現在ベースラインの調査と3ヶ月のフォローアップ調査が終わったところで、現在6ヶ月のフォローアップの準備中です。

小学校での新型コロナウイルス研究は研究費の獲得に苦戦していますが、なんとか2022年春学期の開始を目指して準備しています。

先日は新型コロナウイルスの研究者として New York Times から取材を受け、[記事](#)に載りました（Just How Big Could India's True Covid Toll Be? May 25, 2021）。New York Times から数日にわたる念入りな取材を受ける日がくるとは思っていなかったので、とても光栄でした。これからも取材をがくるような研究ができるよう精進します。（コロナ以外あまりメディア受けしない研究なので、もう一生ないかもしれないですが…！笑）

## Freeman Lab における人獣共通感染症 (One Health) の研究

[Freeman Lab](#) では、准教授の [Matthew Freeman](#) のもと、「低・中所得国で動物由来の感染症をどのように効率的にコントロールし、人（特に子ども）の健康を改善できるか」を研究しています。具体的には、モザンビークの首都 Maputo にて、ニワトリおよびその肉・卵由来のカンピロバクター、サルモネラ感染症の健康被害を調査しています。

現地の共同研究者と協力して、2021 年春に Maputo の約 450 の家庭で population survey を実施し、ニワトリの肉・卵がどのくらいの頻度で消費されているか、どこで購入されているか、子どもがどの程度の頻度で鶏と接することがあるか、などを調査しました。このデータをもとに、感染症動態モデル (transmission dynamic model) を構築しているところです。

また、新しい研究費獲得のため、プロポーザルを執筆して 2021 年 4 月に提出しました。7 月には第一選考の結果がわかる予定です。

さらに、チームで新しい NIH R01 グラントの申請を準備しています。こちらは今年 10 月の提出を目指しています。

---

## 日本でのアカデミアポジションについて

---

2021 年 7 月 1 日をもって、酪農学園大学の特任准教授（獣医学）に就任することが決まりました。あくまで無報酬のパートタイムのポジションなので、Emory 大学でのポジションはもちろん継続します。年に数回の講義を担当し、共同研究もする予定です。日本でアカデミアの職を得ることは長年の夢だったので、とても嬉しく大変光栄に思っております。今後につなげられるよう頑張ります。

---

## 産休について

---

2021 年 7 月中旬～下旬に第二子出産予定です。生まれるまではフルタイムで働いて、生まれたあとは 2～3 ヶ月休みを頂く予定です。出産予定日が Emory での仕事を始めて 12 ヶ月に満たないため（10 ヶ月半くらいです）、有給の産休をいただくことができないため、通常のバケーションと病欠をフルで使って、残りは無給でのお休みになります。アメリカの産休制度は本当にひどいです。笑

塩田佳代子

Kayoko Shioda, PhD, DVM, MPH

[kayoko.shioda@aya.yale.edu](mailto:kayoko.shioda@aya.yale.edu); [kayoko.shioda@emory.edu](mailto:kayoko.shioda@emory.edu)